

100年後の未来に里山を

—放牧による次世代型の里山の提案—

182000 穂川福河
指導教員：堀本豊浩教授

01 メインプラン

研究目的

- 1 対象敷地における生態系と地形の解明
- 2 放牧を用いて持続する里山の提案

100年という時間は人や自然が次の世代へと移り変わる周期である。

目まぐるしく移り変わる時代の中で、かたちや機能を100年の間持続するためにはそれだけのポテンシャルが必要であり、ないものは時代の流れによって淘汰されてゆく。

時代の流れに適応する次世代型の里山を提案する。

<現代における里山の重要性>

里地里山は、農地、ため池、樹林地、草原など多様な自然環境を有する地域。里地里山の環境は、長い歴史の中で人間や様々な生物の活動を通じて形成されたもの。里地里山は自然資源の供給、美観形成、自然とのふれあいの場、文化伝承などの観点から重要な役割を果たしている。また動植物の生息場所となり、自然を豊かにする役割を担っている。里地里山における生物多様性は、地域の自然を活かした農林業等の営みや人々の暮らし、住民や企業、学校など多様な主体も巻き込んだ取組などを通じて保たれてきたものであり、地域の取組が重要な役割を担っている。100年後の未来、技術進歩や地方の都市化が進んだとしても里山の重要性は変わらず、時代に適した里地里山のかたちと機能を維持していかなければならない。(図-1)



図-1: 里山重要性概念図

